

2026年6月14日

## 主日礼拝

礼拝讃美歌⇒415番 (SK 姉)

『何たる愛ぞ』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 4章 16~18節 (MM 姉)

『だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 5章 5~8節

『わたしたちを、このようになるのにふさわしい者としてくださったのは、神です。神は、その保証として“霊”を与えてくださったのです。それで、わたしたちはいつも心強いのですが、体を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。わたしたちは、心強い。そして、体を離れて、主のもとに住むことをむしろ望んでいます。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒297番

『見ゆるところによらず』

聖書⇒創世記 3章 4~7節 (KT 姉)

『蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。』

聖書⇒詩編 91章 1~7節

『いと高き神のもとに身を寄せて隠れ／  
全能の神の陰に宿る人よ  
主に申し上げよ／  
「わたしの避けどころ、砦／

わたしの神、依り頼む方」と。  
神はあなたを救い出してくださる／  
仕掛けられた罠から、陥れる言葉から。

**神は羽をもってあなたを覆い／  
翼の下にかばってください。**

**神のまことは大盾、小盾。**

夜、脅かすものをも／  
昼、飛んで来る矢をも、恐れることはない。

暗黒の中を行く疫病も／

真昼に襲う病魔も

あなたの傍らに一千の人／  
あなたの右に一万の人が倒れるときすら／  
あなたを襲うことはない。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 4章 4~7 節

『ところで、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされています。しかし、不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。同じようにダビデも、行いによらずに神から義と認められた人の幸いを、次のようにたたえています。

**「不法が赦され、罪を覆い隠された人々は、／  
幸いである。  
主から罪があると見なされない人は、／  
幸いである。」』**

(祈り)

礼拝讃美歌⇒365 番 (KH 兄)

『ただ主を讃えて』

聖書⇒申命記 4章 7 節 (CN 兄)

『いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか。』

(祈り)

## 《パン裂き》

聖書⇒マルコによる福音書 14 章 22~26 節 (KH 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒153 番

『わがためいのちを』

## 《建徳》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 14 章 29 節 (NH 兄)

『預言する者の場合は、二人か三人が語り、他の者たちはそれを検討しなさい。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 4 章 46~54 節

『イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気であった。この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやして下さるように頼んだ。息子が死にかかっていたからである。イエスは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われた。役人は、「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と言った。イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこぞって信じた。これは、イエスがユダヤからガリラヤに来てなされた、二回目のしるしである。』

聖書⇒ルカによる福音書 13 章 31~32 節

『ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」イエスは言われた。「行って、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 2 章 23~25 節

『イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらう必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。』

礼拝讃美歌⇒37 番 (KH 兄)

『わが主のこよなき』

《建徳要旨》